

ライチョウの概要

キジ目 ライチョウ科

(学名 *Lagopus muta japonica*)

絶滅危惧 I B類 (環境省レッドリスト 2012)



I. 現状

1. 分布及び個体数

- ・ 現在の分布域は頸城山塊、北アルプス、乗鞍岳、御嶽山、南アルプス。
- ・ 1980年代には約3,000羽と推定された(信州大学)が、その後の調査に基づき、現在では2,000羽以下に減少したと推定されている(信州大学)。

2. 形態及び生物学的特性

- ・ 成熟個体で全長37cm。
- ・ メスは6月にハイマツなどの根元など地上に窪みを作って巣とし、6卵ほど産卵する。
- ・ 主な食物は高山植物の芽、種子など植物質。春から夏には昆虫なども食べる。
- ・ 遺伝子解析により、頸城山塊、北アルプス、乗鞍岳、御嶽山、南アルプスの5つのグループに分かれていると考えられている(信州大学ほか)。

3. 好適な生息地

- ・ 本州中部の標高2,200~2,400m以上の高山帯(ハイマツ林帯や岩石帯)で繁殖し、冬期には亜高山帯にも降りて生活する。

4. 生息を脅かす要因

- ・ 捕食者となり得る種の分布拡大による影響(キツネ、カラス等)
- ・ 従来生息していなかった種(ニホンジカ、ニホンザル等)が侵入し、高山植生が採食されることによる生息環境の劣化
- ・ 山岳環境の汚染に起因する感染症の原因菌等の侵入
- ・ 登山客等の増加に伴う攪乱
- ・ 気候変動による営巣環境・植生等への影響

II. 保護の取り組み

- ・ 種の保存法に基づく国内希少野生動植物種(平成5年)。保護増殖事業計画策定(24年)
- ・ 国指定の特別天然記念物(大正12年)。
- ・ 生息地の多くが国立公園(上信越高原国立公園、中部山岳国立公園、南アルプス国立公園)や鳥獣保護区(北アルプス鳥獣保護区)に指定。
- ・ 長野県希少野生動植物保護条例に基づく指定希少野生動植物(平成16年)
- ・ 生息域外保全に関連し、国内の動物園6施設において、別亜種スバルバルライチョウによる飼育・繁殖の知見の集積が行われている。